

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	今年度の本プログラム申請者数は14名であった。本プログラムは2023年度よりスタートしたため修了者は現時点で0名である。申請者数は昨年度より微増したもののまだまだ学生に本プログラムが浸透していないことが要因と考えられる。今後の申請者数増加策として、1年次必修科目初回授業での担当教員による本プログラムの紹介やプログラムの申請ハードルを下げるための対象科目の追加・修了要件の見直しに着手する。
学修成果	本プログラム対象科目の履修者に対し独自の授業アンケートを実施した結果、「授業を通じた自身の能力向上や成長実感」について、82.4%の肯定回答が得られ学修成果が着実に得られていることを確認した。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラム対象科目の履修者に対し独自の授業アンケートを実施した結果、「授業内容の理解及び知識・技能等の修得」について、83.5%の肯定回答が得られ授業内容に対する理解が進んでいることを確認した。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラム対象科目の履修者に対し独自の授業アンケートを実施した結果、「他の学生や後輩学生への推奨」について、82.0%の肯定回答が得られた。一方で本プログラムの申請者数は少数であるため、次年度以降申請者の増加に努めていく。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは学部独自のプログラム内容であるため、全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の必要性はない。一方で本プログラムの申請者数は現状まだ少ないため今後の申請者数増加策として、1年次必修科目初回授業での担当教員による本プログラムの紹介やプログラムの申請ハードルを下げるための対象科目の追加・修了要件の見直しに着手する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>授業終了時に授業に関する学修成果・理解度アンケートを実施し、学生自身の知識・技術の修得状況や能力の高まり、成長実感を確認している。履修学生のアンケート（自己評価）は肯定回答率が非常に高く、身に付けた能力を活かし、今後社会で活躍することに期待ができる。本プログラム開始は2023年度であり、卒業生が社会に出るのは2026年度以降となる見込みのため、活躍状況等の調査については今後期待をしたい。</p> <p>データサイエンス・AIを活用して課題を解決する実践的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる教育プログラムになっている。その一例として「水利用の計画」「水環境とまちづくり」の授業では「都市水環境問題から持続可能なまちづくりについて考える」ということをAI技術を活用し実社会の課題解決につなげるとは何かを理解できる内容となっており、大学の特性に応じた特色ある取り組みであることも評価できる。地域連携、産業界との連携にも期待ができる。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムの授業科目ではデータサイエンス・AIが社会においてどのような位置づけにあり、様々な分野でどのように活用されているのかを学習した上で基礎知識の修得や情報倫理の理解定着を促し、経済・社会における様々な問題を分析しその本質を理解することで、問題を解決できる能力を培う内容となっている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学生を対象とした「授業に関する学修成果・理解度アンケート」、学外評価者からの評価・意見を教授会で確認・点検し、プログラム内容・水準の維持・向上を図っている。</p>